

甲斐市文化財調査報告書 第8集
(山梨県)

石原田遺跡 I

民間宅地開発に伴う縄文時代の発掘調査報告書

2006

有限会社 北宝エステート
甲斐市教育委員会

序 文

甲斐市には、山梨県最古の窯跡である「天狗沢窯跡」をはじめ、7世紀の群集墳である「赤坂台古墳群」、中世民間信仰の好例とされる経筒が出土した「塔之越経塚跡」、日本の治水事業の基礎とされる「竜王川除（信玄堤）」など甲斐市はもとより、山梨県史を解明する上でも大変重要な遺跡が多く残されております。

しかし、県都甲府市に隣接する本市は近年人口の急増が著しく、宅地造成工事や大型商業施設の建設など多くの開発事業が進み、本市教育委員会としましても埋蔵文化財を保護するための緊急発掘調査の対応が増加しております。

これまで「石原田遺跡」の具体的な調査は行われておらず、縄文土器が採取されるのみにとどまっておりました。今回の発掘調査によって縄文時代早期の遺跡であることが明らかになり、出土したミニチュア土器は、県下で最も古いものであることも判明いたしました。本書はその調査成果をまとめたものであります。

今後は、調査で得られました多くの成果を後世へ伝えるとともに、調査研究、教育普及の資として多くの皆様へ幅広く活用していただけるよう努めてまいります。

終わりに、有限会社北宝エステートの文化財保護に対する深いご理解のもと調査が実施できましたことに感謝するとともに、ご指導、ご協力をいただきました関係各位に感謝申し上げます、序といたします。

平成18年3月

甲斐市教育委員会

教育長 中 込 豊 弘

例 言

1. 本書は、山梨県甲斐市島上条に所在する石原田遺跡の第1次調査をまとめた発掘調査報告書である。
2. 本調査は、有限会社北宝エステートによる造成工事による先立ち実施した。
3. 調査は、平成15年度に数島町教育委員会（当時）によって試掘調査を行った。本調査は平成16年4月16日から同年5月6日まで榑日本歴史研究所から調査員の派遣を受け、数島町文化財調査会（当時）が実施した。整理、分析調査は甲斐市教育委員会及び同教委が委託した榑日本歴史研究所によって平成17年度に実施した。
4. 本書の執筆、編集は三輪孝幸が担当した。遺構、遺物の写真は三輪が撮影した。出土遺物の実測、拓本は須長愛子（甲斐市教委）の協力を得た。
5. 本書に係る出土遺物及び記録図面、写真は甲斐市教育委員会に保管してある。
6. 調査に係る費用は、榑北宝エステートが負担した。
7. 調査組織は次のとおりである。

調査組織

調査指導・主管 数島町教育委員会（平成16年8月まで）

甲斐市教育委員会（平成16年9月から）

調査指導担当者 大崎正之（甲斐市教育委員会）

調査担当者 三輪孝幸（榑日本歴史研究所）

調査事務局 数島町文化財調査会（平成16年8月まで）

甲斐市教育委員会（平成17年4月から）

8. 本書作成にあたり、次の方々よりご指導、ご教示頂いた。ここにご芳名を記し感謝申し上げる。

新津 健、野代 幸和（山梨県教育委員会）・小野正文（山梨県立博物館）

保坂麻夫（山梨県埋蔵文化財センター）・三山村美彦（山梨県立考古博物館）

榑原功一（榑山梨文化財研究所）・間間俊明（榑崎市教育委員会）

村松佳幸（北杜市教育委員会）（願不同・敬称略）

9. 調査作業参加者・遺物実測、拓本、トレース図作成者

青山制了、飯室久美恵、石川弘美、長田由美子、小林明美、高添美智子、堀 吉彦、保延 勇、望月典子、

森沢篤美（敬称略）

凡 例

1. 挿図の北は磁北を示し、レベルは標高を表している。
2. 挿図の縮尺は遺構が1号集石1/40、1号土坑1/60、遺物は上器1/2、石鏃1/1、礮器・凹石・稜磨石・石皿1/3を基本とし、そのほかは図に記載した。
3. 遺物番号は本文・挿図・観察表・図版で統一してある。
4. 第6図1号集石の遺物は●土器、▲石鏃、■礮器・凹石である。

本文目次

第1章 遺跡をとりまく環境	1
1. 遺跡の立地と環境	1
2. 遺跡の概要と調査方法	1
3. 基本土層	1
第2章 遺構と遺物	5
1. 集石	5
2. 土坑	9
3. 調査区内出土遺物	10
第3章 まとめ	15

挿図目次

第1図 遺跡位置図	第8図 1号集石出土石器
第2図 調査区位置図	第9図 1号土坑
第3図 基本土層模式図	第10図 1号土坑出土石器
第4図 調査区土層断面図	第11図 調査区内出土石器 (1)
第5図 全体図	第12図 調査区内出土石器 (2)
第6図 1号集石	第13図 調査区内出土石器 (1)
第7図 1号集石出土石器	第14図 調査区内出土石器 (2)

表目次

第1表 1号集石出土石器観察表	第4表 調査区内川上石器観察表
第2表 1号集石出土石器観察表	第5表 調査区内出土石器観察表
第3表 1号土坑出土石器観察表	

図版目次

図版1 調査区全景 (南西から) 1号集石遺物川土状況 (南から) 1号集石全景 (南から) ミニチュア石器出土状況 (南から) 1号集石出土石器・石器	
図版2 1号土坑及び調査区内出土石器・石器	

第1章 遺跡をとりまく環境

1. 遺跡の立地と環境（第1図）

甲斐市は甲府盆地の北西部に位置する。市内は地形の特徴から大きく3つの地域に分けられる。まず、茅ヶ岳や曲岳、太刀岡山などの山間部を中心とする北部山岳地域、茅ヶ岳の噴火により形成された赤坂台地を中心とした丘陵地域、奥秩父の金峰山を源とし甲府盆地内へと南流する荒川や南アルプス鋸岳を源として南流する釜無川により形成された扇状地域に大別できる。

今回、調査の対象となった「石原田遺跡」は上述した荒川によって形成された扇状地上の敷島地区に所在地している。この敷島地区の扇状地には南北に平行し2本の微高地が形成されているが、この微高地を中心に遺跡包蔵地がかなり密集した地域となっている。現にこれまでの調査で、縄文時代から中・近世を経て現在に至るまで連続と人々が生活を営んできた痕跡が数多く発見されてきている。本遺跡はこの扇状地上の北西側にあたる斜面に占地し、標高は約311～312mを測る。

2. 遺跡の概要と調査方法（第2・5図）

本遺跡は遺跡分布調査の際に地表面から縄文時代の遺物が確認されたことで、遺跡の所在が明らかとなった。本市内では金の尾遺跡を初めとする原腰遺跡、松ノ尾遺跡より遺構・遺物が確認されている。しかし、早期の遺跡としては初見であり、今回の調査が第1回目の調査にあたる。

調査は旧耕作土を厚さ10cmほど残して、現耕作土と旧耕作土を重機によって掘り下げを行った。同時にグリット杭を遺跡の東方を走る市道の基準線に合わせて5m方眼のグリットを設定した。グリットの名称は東西をアルファベット、南北を算用数字で表した。また、各グリットを1m方眼に小分割し、南西隅を1とし、北東隅が25になるように設定した。

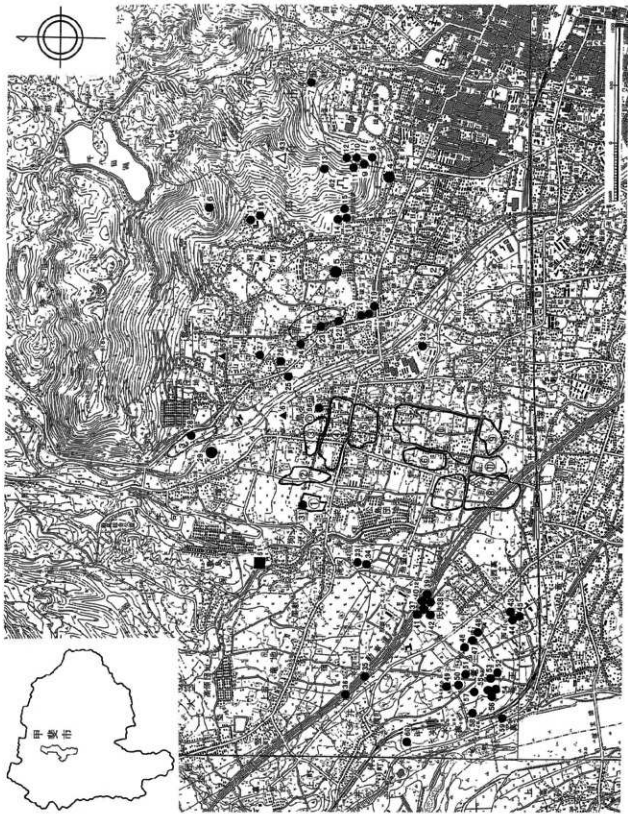
掘り下げ作業は、10cmほど残した旧耕作土の除去作業から行い、出土遺物は5m方眼のグリットで取り上げた。その後、黒色土層（3層）上面で遺構確認のための精査を行った。作業の結果、遺構が確認できなかったため、層位と地山までの深さを確認するために、2×2mの小グリットを3箇所掘り下げた。その結果、調査区東端D-3グリットでは遺物を包含する黒色土は認められず、地山までの深さは50cmを測る。C-2グリットでは深さ10cmで集石遺構を確認した。B-1グリットでは深さ40cmで褐色土（4層）を確認した。グリット掘削の結果、D-3・4グリットにおいては遺物の混入が認められないため、以後の調査を行わないものとし、集石の確認された付近から、西側の黒色土（3層）の調査を行うことにした。集石は東西2.5m、南北3mの範囲に礫と遺物が集中して認められた。集石遺構の調査は精査を行いつつ、土器はドットで取り上げ、礫は縮尺20分の1で平面図を作成し、段階ごとに精査・写真撮影・実測を繰り返した。礫の実測には補足的に垂直写真の撮影も行った。黒色土（3層）はB-1グリットの調査から、遺物の出土状態、層位により上層、中層、下層に分けらる。遺物は2m方眼の小グリットと層位を組み合わせて、取り上げを行った。

集石部分を残し、調査区全体の黒色土（3層）を取り除き、調査区全体の写真撮影、全測図の作成を行い、また、調査区西端と、トレンチの基本土層図を作成し、野外調査を終了した。

3. 基本土層（第3・4図）

調査区は丘陵の南斜面に立地、現況は宅地化されつつも耕作地が残っている。耕作に際して斜面を段切りしているため、調査区の南に隣接する耕作地との比高は0.5～2.0mを測る。

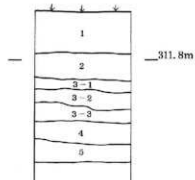
調査区の基本土層を模式図に表したのは第3図である。以下に、その概要を記す。



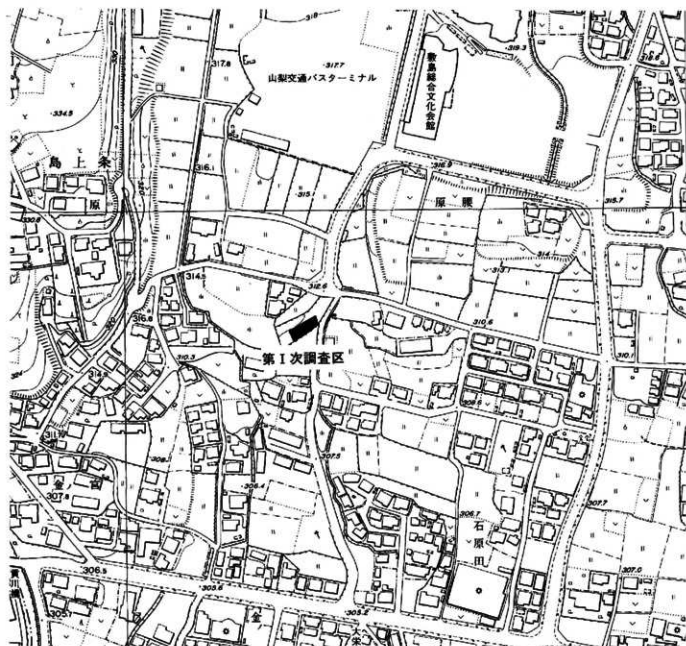
第1区 遺跡位置図

- 1 遺跡
 2 遺跡
 3 遺跡
 4 遺跡
 5 遺跡
 6 遺跡
 7 遺跡
 8 遺跡
 9 遺跡
 10 遺跡
 11 遺跡
 12 遺跡
 13 遺跡
 14 遺跡
 15 遺跡
 16 遺跡
 17 遺跡
 18 遺跡
 19 遺跡
 20 遺跡
 21 遺跡
 22 遺跡
 23 遺跡
 24 遺跡
 25 遺跡
 26 遺跡
 27 遺跡
 28 遺跡
 29 遺跡
 30 遺跡
 31 遺跡
 32 遺跡
 33 遺跡
 34 遺跡
 35 遺跡
 36 遺跡
 37 遺跡
 38 遺跡
 39 遺跡
 40 遺跡
 41 遺跡
 42 遺跡
 43 遺跡
 44 遺跡
 45 遺跡
 46 遺跡
 47 遺跡
 48 遺跡
 49 遺跡
 50 遺跡
 51 遺跡
 52 遺跡
 53 遺跡
 54 遺跡
 55 遺跡
 56 遺跡
 57 遺跡
 58 遺跡
 59 遺跡
 60 遺跡
 61 遺跡
 62 遺跡
 63 遺跡
 64 遺跡
 65 遺跡
 66 遺跡
 67 遺跡
 68 遺跡
 69 遺跡
 70 遺跡
 71 遺跡
 72 遺跡
 73 遺跡
 74 遺跡
 75 遺跡
 76 遺跡
 77 遺跡
 78 遺跡
 79 遺跡
 80 遺跡
 81 遺跡
 82 遺跡
 83 遺跡
 84 遺跡
 85 遺跡
 86 遺跡
 87 遺跡
 88 遺跡
 89 遺跡
 90 遺跡
 91 遺跡
 92 遺跡
 93 遺跡
 94 遺跡
 95 遺跡
 96 遺跡
 97 遺跡
 98 遺跡
 99 遺跡
 100 遺跡

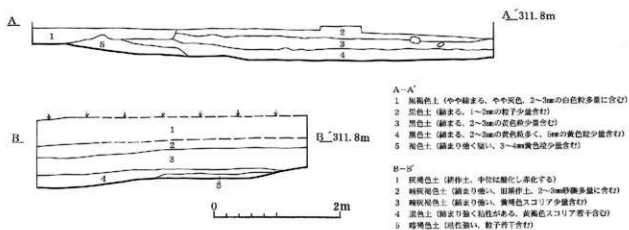
- 1層 灰色土（現耕作土。上層は締まり無し、下層は締まり強く酸化し赤化、2～3mm礫を多く含む）
- 2層 暗灰色土（旧耕作土。やや締まり、植物根多く、1～2mmの礫多量に含む）
- 3-1層 黒色土（締まる、1～2mmの粒子少量含む）
- 3-2層 黒色土（締まる、2～3mmの黄色粒少量含む）
- 3-3層 黒色土（締まる、2～3mmの黄色粒多く、5mmの黄色粒少量含む）
- 4層 褐色土（締まり強く、堅い、3～4mm黄色粒少量含む）
- 5層 黄褐色土（締まり強く、褐色粒少量含む）



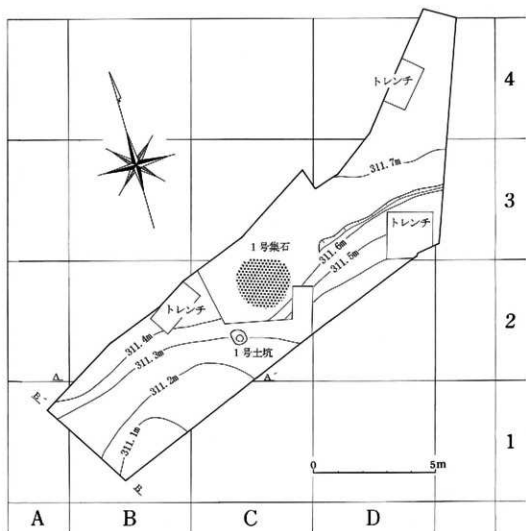
第3図 基本土層模式図



第2図 調査区位置図



第4図 調査区土層断面図



第5図 全体図

第2章 遺構と遺物

1. 集石

1号集石 (第6~8図、第1・2表、図版1)

遺構

C-2グリットに位置し、東西2.5m、南北3mの範囲に礫と遺物が集中して確認された。集石遺構の上面には3層上層が覆い、耕作や植物根の影響からか上面の礫や遺物がランダムに出土した。また、出土した土器も早期押型文系土器、条痕文系土器、前期諸磯式土器が混在して確認された。これら上層の遺物を取り上げると径約2mの範囲に焼礫が平坦に敷き詰められているのが確認され、この面が使用面と考えられる。使用面の礫を取り除くと下位には円・角礫が見られたが焼けた痕跡は認められなかった。礫には稜磨石、礫器などの石器が含まれていた。集石の下位には黒色土(3層)を掘り込み、褐色土(4層)を底面とした径約200cm、深さ20cmのすり鉢状の土坑が認められた。

時期は下位から確認できたものは押型文系の土器が多く、集石はこの時期のものと考えられる。

遺物

遺物は3層上から掘り込みの底面に至るまで万遍なく出土し、その範囲も集石本来の規模を上回るものであった。そこで、集石遺構の礫の状況から、中心部より径200cmの範囲を中核部、その外周を外周部、また、確認面から集石使用面上面までを上層、使用面から掘り込み面までを下層とし、出土遺物の分類を試みたが、特別時期差は認められなかった。

土器

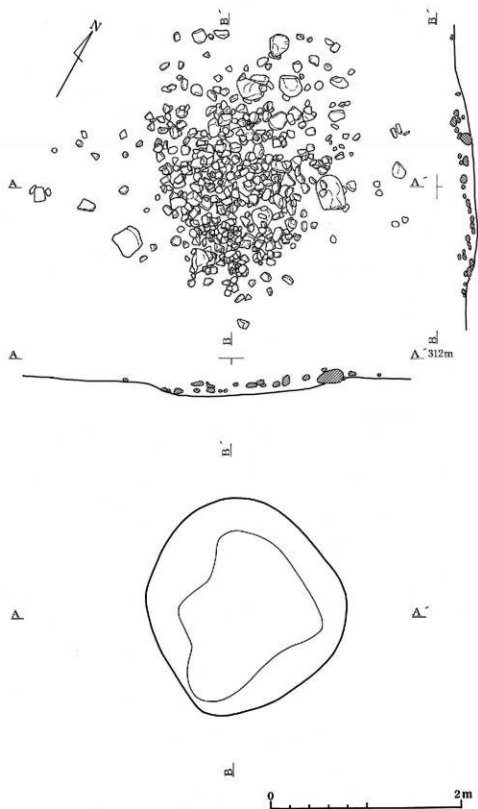
条線の施される土器(1)

貝殻腹縁文が施される土器(2~4)

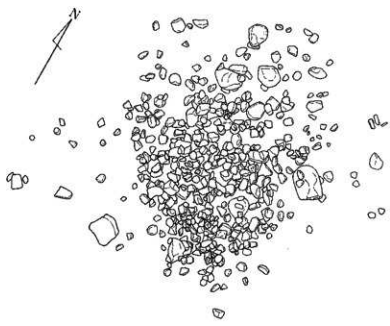
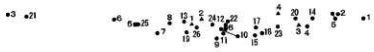
2は右上位方向に貝殻腹縁文が施された後、条線が施されている。3は横位にハイガイ、ハマグリによる貝殻腹縁文が交互に施される。4は沈線が施された間に、貝殻腹縁文が施される。

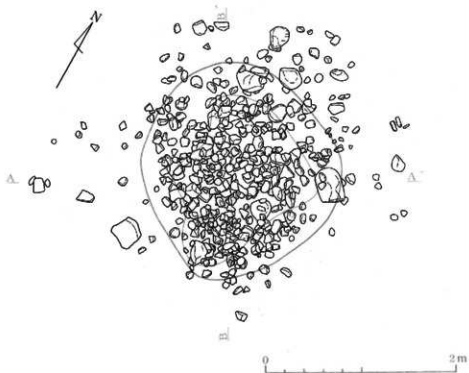
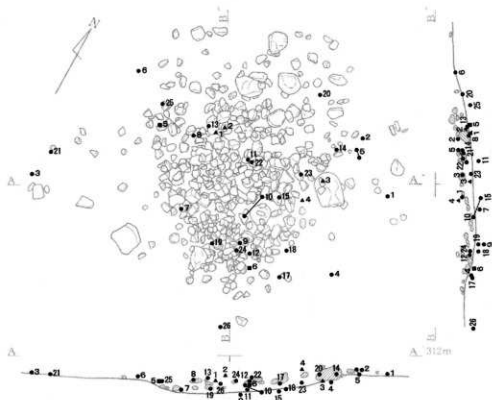
第1表 1号集石出土土器観察表

No.	出土位置	器形	部位	色調	焼成	胎土	文様	備考
1		P1	深鉢	茶褐色	良	金雲母を多く含む	条線	
2		P4	深鉢	茶褐色	良	長石・金雲母を含む	貝殻腹縁文	
3		P61	深鉢	茶褐色	良	金雲母・長石・石英を含む	貝殻腹縁文	
4	外周部上層	P45	深鉢	明茶褐色	良	金雲母・長石・石英を含む	貝殻腹縁文	
5	外周部上層	P2/3	深鉢	口辺部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文
6	外周部上層	P21	深鉢	口辺部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文
7	外周部下層	P163	深鉢	口辺部	茶褐色	良	金雲母を含む	山形押型文
8		P92	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む。長石	山形押型文
9	中核部下層	P167	深鉢	体部	暗茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文
10	中核部下層	P97.153	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文
11		P157	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を含む	山形押型文
12	中核部上層	P65	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文
13		P93	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文
14		P6	深鉢	体部	茶褐色	良	長石・金雲母を含む	山形押型文
15	中核部下層	P150	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母・長石・石英を含む	山形押型文
16		P68	深鉢	底部	淡茶色	良	金雲母を多く含む	山形押型文
17	外周部下層	P44	深鉢	口辺部	茶褐色	良	長石・金雲母を含む	楕円押型文
18		P131	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	楕円押型文
19		P140	深鉢	体部	黒茶色	良	長石・雲母を含む	楕円押型文
20		P8	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を含む	楕円押型文
21	外周部上層	P59	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	楕円押型文
22	中核部上層	P31	深鉢	口辺部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	押型文
23		P127	深鉢	口辺部	茶褐色	良	長石・石英・金雲母を含む	網目状押型文
24	中核部上層	P48	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	押型文
25	外周部上層	P24	深鉢	体部	茶褐色	良	長石・金雲母を含む	押型文+条線文
26	外周部下層	P54	深鉢	口辺部	淡茶色	良	キムズミ、長石・石英を多く含む	押形隆帯

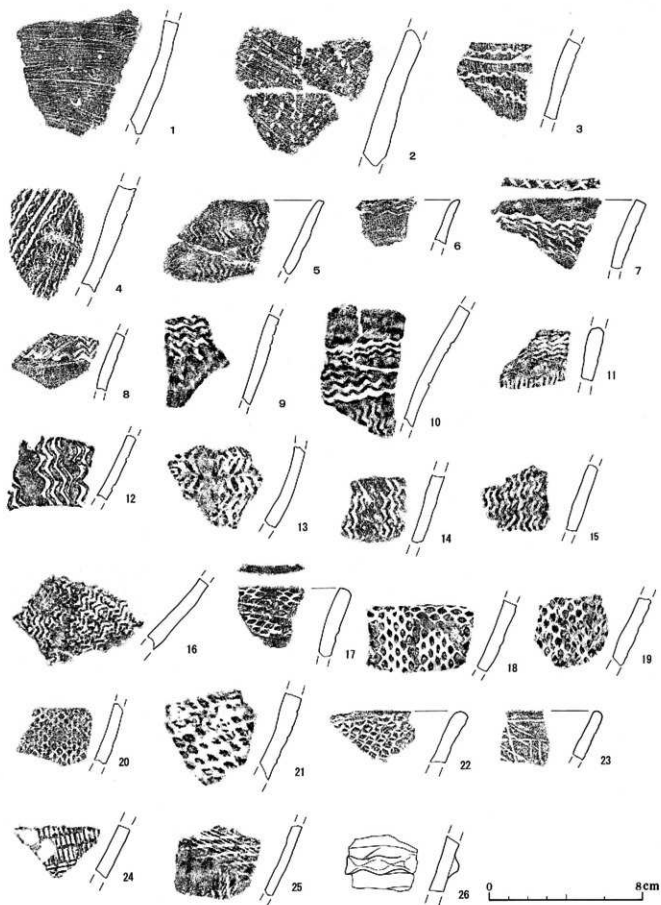


第6图 1号集石





第6图 1号集石



第7图 1号集石出土土器

押型文が施される土器 (5~25)

5~7・17・22・23は口辺部片。8~15・18~21・24・25は体部片。16は底部付近の破片である。5・12~16は縦位に山形文が施される。6~9は横位に山形文が施され、7は口縁部に山形文が押圧される。10・11は上位に横位の山形文、下位に縦位の山形文が施される。17・21は横位に楕円文が施される。18は上位に横位の楕円文、下位に縦位の楕円文が施される。19・20は縦位に楕円文が施される。22は横位に楕円文が施されるが、複数回の施文が行われていると考えられ、網目状を呈する。23は網目状文。24は格子目文。25は押型文に燃糸文が施される。

押圧隆帯が施される土器 (26)

石器

石鏃

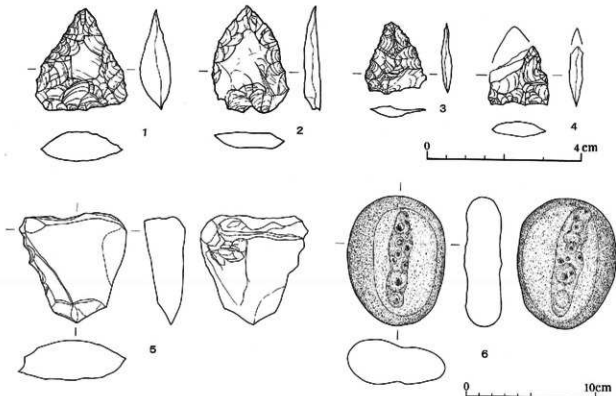
1・4は三角形を呈する。2は側縁が丸みを持ち、基部は認められない。4は先端を欠損するが、側縁は丸みを持ち、基部はやや弓状を呈する。

礫器

5は三角形を呈し、片面に自然面を残し、図の左側に刃部が作られている。

凹石

6は円礫を利用した凹石で、上下両面に溝状の窪みが認められる。



第8図 1号集石出土石器

第2表 1号集石出土石器観察表

No.	出土位置	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石材	欠損状況
1	S-41	石鏃	2.7	2.4	0.8	4.52	チャート (秩父産)	
2	S-76	石鏃	2.8	1.9	0.4	2.46	珪質頁岩	
3	S-77	石鏃	1.9	1.7	0.3	0.63	黒曜石	
4	S-25	石鏃	1.5	1.6	0.4	0.89	黒曜石	先端を欠損
5	S-84	礫器	8.7	8.4	3.2			
6	S-86	凹石	10.2	7.7	3.5			

2. 土坑

1号土坑 (第9・10図、第3表)

遺構

C-2グリットに位置し、1号集石の南方約1.2mにある。平面形は円形で、規模は径65cm、深さ24cmである。壁は外傾して立ち上がる。遺構は褐色土(4層)で確認した。しかし、遺構上面に1号集石方向より流れ込んだと考えられる礫が確認されたことから、3層中位から掘り込まれたものと考えられる。

遺物は縄文土器の小片が数点出土した。小片のため型式は不明であるが、胎土から早期押型文系土器と推測される。遺構の時期は出土遺物や確認した層位から縄文時代早期のものと考えられる。

遺物

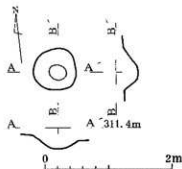
石器

礫器

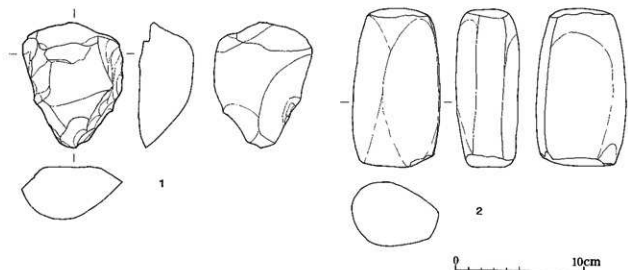
1は二等辺三角形形状を呈し、左右両面に刃部が作られる。

稜磨石

2は楕円状の礫の両面に加工を加え、断面三角形にしたのち、三角形の稜線上を加工している。



第9図 1号土坑



第10図 1号土坑出土石器

第3表 1号土坑出土石器観察表

No.	出土位置	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	石材	欠損状況	備考
1	S-3	礫器	9.9	7.7	4.2			
2	S-4	稜磨石	12.5	6.8	5.0			

3. 調査区内出土遺物（第11～14図、第4・5表、図版2）

今次調査区は第1章で説明した如く、南面する斜面が、耕作により段切りを受けており、北東部においては遺物を包含する層位を確認することが出来なかった。調査区は斜面に対し平行していることから、調査区北東部の標高が高く、南西部が最も低くなっている。遺物を包含する層位（3層）は1号集石から南西方向に確認され、B-1、C-1グリットから最も多く出土した。

土器

太い沈線の施される土器（1）

1は口辺部片で太い沈線が横位に施されている。

燃糸文の施される土器（2～6）

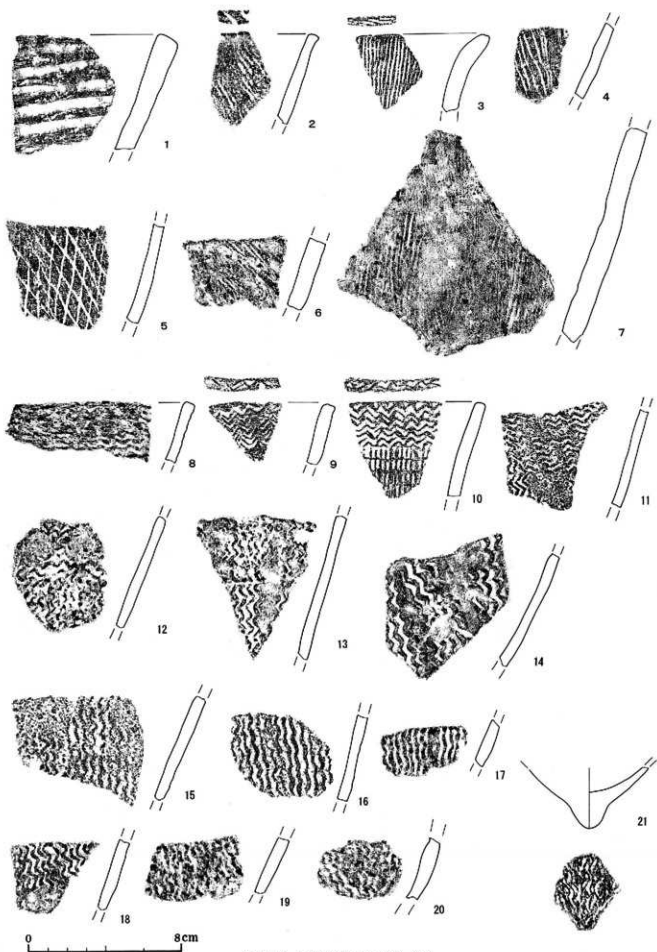
2・3は口辺部片。4～6は体部片。2・3は口縁部に燃糸文の原体が施文されている。5は網目状文。6は擦痕状に施される。

条線の施される土器（7）

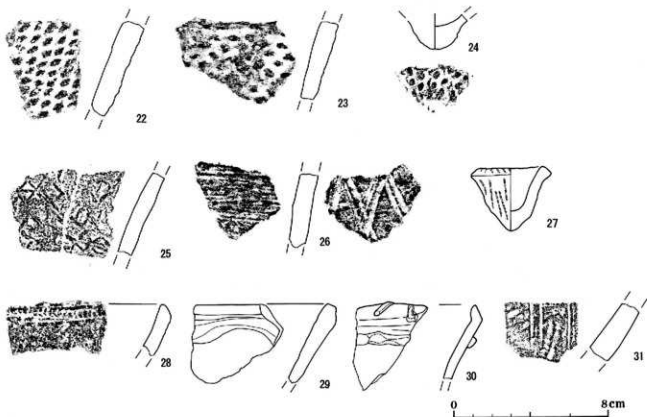
7は体部片で、縦方向に条痕状の条線が施される。

第4表 調査区内出土土器観察表

取	分類	出土位置	層位	器形	部位	色調	構成	胎土	文様	備考
1	二戸式	B-1	3層	深鉢	口辺部	淡茶色	良	長石を多く含む、雲母	沈線文	
2		B-1	3層, 中位	深鉢	口辺部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	燃糸文	
3		B-1	3層	深鉢	口辺部	茶褐色	良	長石・石英・雲母を含む	燃糸文	
4		B-1	3層	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	燃糸文	
5		B-1, P9		深鉢	体部	茶褐色	良	長石・石英・金雲母を含む	網目状燃糸文	
6		C-2	2層	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	燃糸文	
7		B-1	3層	深鉢	体部	外面淡茶色 内面茶褐色	良	長石・雲母を含む	条線	
8		B-1, P14		深鉢	口辺部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文	
9		D-2	2層	深鉢	口辺部	淡茶色	良	長石・雲母を含む	山形押型文	
10		B-1 P11		深鉢	口辺部	茶褐色	良	金雲母を多く含む、長石、 石英	押型文	
11		B-1, P15		深鉢	体部	暗茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文	
12		B-1	3層	深鉢	体部	外面暗茶色 内面茶褐色	良		山形押型文	
13		C-3		深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文	
14		B-1	3層	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を含む	山形押型文	
15		B-1, P12		深鉢	体部	暗茶色	良	金雲母を多く含む	山形押型文	
16		B-1, P10		深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	押型文	
17		D-2	2層	深鉢	体部	茶褐色	良	赤色粒子・金雲母を含む	山形押型文	
18		C-2	2層	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を含む	山形押型文	
19		D-2	2層	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文	
20		D-3	2層	深鉢	体部	茶褐色	良	金雲母を多く含む、繊維	山形押型文	
21		C-2	3層	深鉢	底部	茶褐色	良	金雲母を多く含む	山形押型文	
22		C-2	2層	深鉢	体部	茶褐色	良	長石・金雲母を含む	楕円押型文	
23		D-2	2層	深鉢	体部	淡茶色	良	金雲母多く含む	楕円押型文	
24		C-2, P1		深鉢	底部	茶褐色	良	金雲母・長石・石英を含む	楕円押型文	
25		C-2	2層	深鉢	体部	明茶褐色	良	長石・雲母を含む	押型文	
26	判ノ木山西式	C-2	2層	深鉢	体部	茶褐色	良	長石・石英・赤色粒子・雲母 を含む		
27		B-2	3層 中位	ミニチュア 土器	完形	明茶褐色	良	金雲母を多く含む		口径3.2cm, 器高3.4cm
28	諸磯a～b	C-2	2層	深鉢	口辺部	茶褐色	良	石英・長石・雲母を含む	竹管文	
29		B-1	3層	深鉢	口辺部	外面黒茶色 内面白茶色	良	長石・石英・雲母を含む		
30	前期末	C-2	2層	深鉢	口辺部	暗茶色	良	長石・雲母・赤色粒子を含む	押圧降着	
31	五領ヶ台	B-1	3層	深鉢	体部	茶褐色	良	長石・雲母を含む		



第11圖 調査区内出土土器 (1)



第12図 調査区内出土土器 (2)

押型文の施される土器 (8~26)

8~10は口辺部片、11~20・22・23・25・26は体部片、21・24は底部片。8・9は横位に山形文が施文され、10は口辺部に山形文が横位に、その下位に格子目文が横位に施文される。9・10は口縁部に山形文の原体が押圧される。11・12は上位に横位、下位に縦位の山形文が施文される。13~21は縦位に山形文が施文される。11・13・14の縦位の山形文は間隔を空けて施文される。22~24は横位に楕円文が施される。25は格子目文と考えられるが、菱形形状を呈する。26は判ノ木山西式である。

ミニチュア土器 (27)

口辺部は被厚し、底部は乳頭状を呈する。体部外面に燃系か条痕が施されるが、胎土が粗く、器面が摩滅しているため、原体は不明である。

竹管文の施される土器 (28)

横方向に押し引きの半截竹管文が施される。諸磯 a~b 式。

隆帯の施される土器 (29・30)

口辺部。30は前期末。

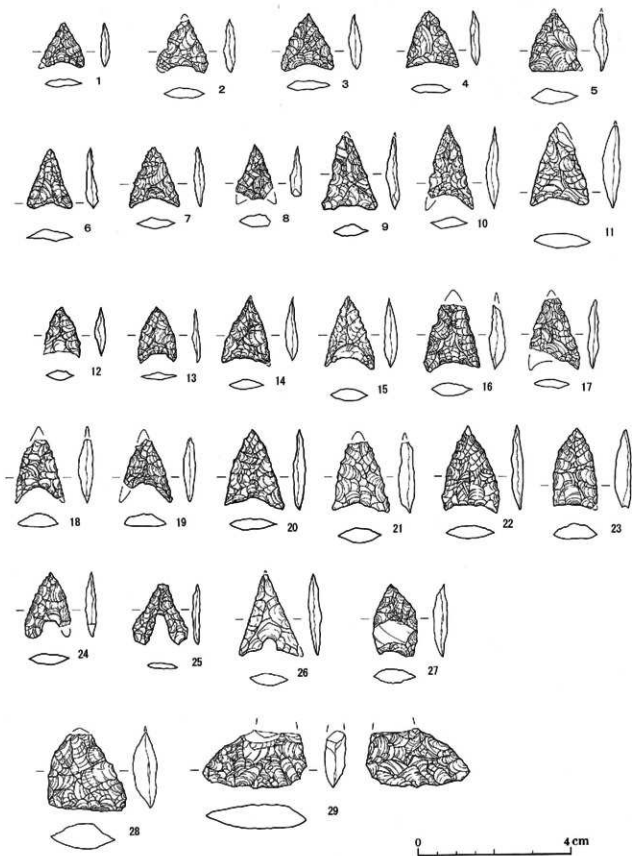
五領ヶ台式 (31)

地文に縄文を施し、縦位に平行する竹管文が施される。

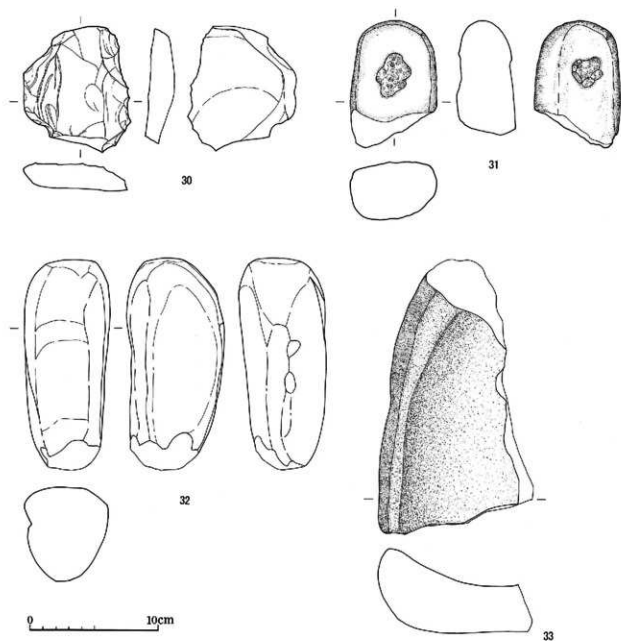
石器

石鏃 (1~28)

1~5は小形の三角形を呈する。1・2は側縁が直線状となり、3~5は側縁がやや丸みを持っている。基部はいずれも弓状を呈する。6~11は二等辺三角形形状を呈する。側縁は直線的で、基部は弓状を呈する。12~23は二等辺三角形形状をし、側縁は丸みを持っている。基部は弓状を呈し、18・19は挟りが深い。24は二等辺三角形形状をするが、基部が丸く抉られている。25は三角形形状をするが、基部が丸く被圧し、細長く抉られている。26は二等辺三角形形状をし、基部は弓状をしなが、中央が丸く抉られている。27は側縁が丸みを持って膨らみ、基部はわずか



第13图 調査区内出土石器 (1)



第14図 調査区内出土石器 (2)

に弓状を呈する。28は丸みを持った三角形をし、基部は直線的である。

石匙 (29)

台形状を呈し、把手部分を欠く。

礮器 (30)

円形を呈し、図の右側に、刃部が認められる。

凹石・稜磨石 (31)

楕円形状を呈し、両面に磨った痕跡が認められ、不整形形の窪みが上下一對にある。

稜磨石 (32)

楕円形の礮の稜の部分がよく磨られているが、他の部分は磨りが弱い。

石皿 (33)

本来、楕円形をしているものと考えられ、凹面がよく磨れているが、裏面によく見られる窪みは、本資料には認められない。

第5表 調査区内出土石器観察表

No.	出土位置	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	欠損状況	備考
1	C-1 3層 (21)	石鏃	1.2	1.1	0.2	0.23	黒曜石		
2	C-2 3層 (20)	石鏃	1.4	1.3	0.3	0.45	黒曜石	先端欠損	
3	A-1 2層	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.44	黒曜石		
4	C-2 2層	石鏃	1.5	1.3	0.2	0.46	黒曜石		
5	C-2 (12, 13, 17, 18)	石鏃	1.5	1.3	0.4	0.69		先端欠損	
6	B-1 2層	石鏃	1.6	1.2	0.2	0.39			
7	C-2 3層下層 (3, 8)	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.47	黒曜石		
8	B-1 3層上層 (14, 15)	石鏃	1.3	0.9	0.3	0.33	黒曜石	基部欠損	
9	B-1 S-3	石鏃	2	1.4	0.3	0.58	黒曜石		
10	B-1 中層 (4, 5)	石鏃	2.2	1.2	0.3	1.05	黒曜石	基部欠損	
11	D-2 2層	石鏃	2.1	1.45	0.45	1.08		先端欠損	
12	B-1 3層上層 (14, 15)	石鏃	1.3	0.9	0.3	0.31	黒曜石		
13	B-1 (25) 3層	石鏃	1.5	1.0	0.2	0.24	黒曜石		
14	B-1 3層中層 (17, 18, 22, 23)	石鏃	1.7	1.3	0.3	0.53	黒曜石		
15	C-2 2層	石鏃	1.9	1.3	0.3	0.63	黒曜石		
16	B-1 2層 (7, 12)	石鏃	1.7	1.5	0.4	0.93	黒曜石	先端欠損	
17	B-2 ベルト① (4, 5)	石鏃	1.8	1.3	0.2	0.49	黒曜石	先端・基部欠損	
18	B-1 2層	石鏃	1.7	1.2	0.4	0.61		先端・基部欠損	
19	B-1 (19, 20, 24, 25)	石鏃	1.6	1.1	0.3	0.42	黒曜石	先端・基部欠損	
20	A-1 2層	石鏃	2.1	1.5	0.3	0.75	黒曜石		
21	D-4 2層	石鏃	1.8	1.4	0.4	0.96	チャート?	先端欠損	
22	C-2 (12, 13, 17, 18)	石鏃	2.3	1.5	0.3	0.96	黒曜石		
23	B-1 (19, 20, 24, 25)	石鏃	2.1	1.1	0.4	0.84	黒曜石		
24	C-2 3層中層	石鏃	1.7	1.2	0.3	0.94	メノウ	基部欠損	
25	D-3 4層 (4, 5, 9, 10)	石鏃	1.6	1.5	0.15	0.28	黒曜石		
26	C-3 (4)	石鏃	2.2	1.4	0.3	0.82	凝灰岩		
27	A-1 2層	石鏃	1.9	1.2	0.4	0.74	黒曜石		
28	B-1 3層下層 (12, 13)	石鏃	2.0	2.0	0.7	2.44	黒曜石		
29	D-2 2層	石鏃	1.5	2.6	0.6	2.13	黒曜石		
30	C-1 2層	礫器	9.8	8.2	2.1				
31	D-3 2層	凹石 稜磨石	9.6	6.8	4.4			約3分の1欠損	
32	C-2 (25)	稜磨石	16.7	6.6	7.5				
33	B-1 S-8	石皿	21.8	12.0	4.8			約5分の1遺存	

第3章 まとめ

今次調査の結果、確認された遺構は集石1基、上坑1基である。

1号集石は径約200cm、深さ20cmの窪みに円・角礫を敷き詰め使用していたものと考えられる。礫は被熱により赤化し、自然礫が多く認められたが、礫器・稜磨石なども含まれていた。1号上坑は1号集石の南約1.2mのところ位置し、平面円形で、規模は径65cm、深さ24cmを測る。

遺物は遺構と谷部下位(B-1、C-1グリット)から早期撚糸土器、貝殻腹縁文土器、押型土器、前期の上器が出た。1号集石、調査区内出土土器いずれをとっても、その主体となるのは縄文時代早期押型土器で山形文、格子目文、楕円文など種類が豊富である。なかでも、山形文が比較的多く出土した。

甲斐市数島地区の地形は甲斐市境を扇の要とし南に開く、荒川によって形成された扇状地形を呈している。遺跡はその扇状地を見下ろす、赤坂台地の先端部に位置している。調査区は南に傾斜する斜面に立地していることから、確認された遺構は少ないものの比較的良好な上器群を確認し得た。当地は従前、耕作の際出土した土器群から、前期須石式期の遺跡と考えられていたが、今回の調査により、縄文早期押型文の時期にも遺跡の画期が在ることが判明した。

また、B-2グリットより出土したミニチュア上器は胎土が粗く、表面が摩滅しているが、器形の特徴、施文の手法、また、周囲から出土した石器などから、早期のものと判断できる。山梨県内におけるミニチュア上器は縄文時代中期では比較的多く出土しているが、それ以前には出土例を見ることは出来ない。その結果、本資料は、山梨県内出土のミニチュア上器としては最古の例であることが判明した。



調査区全景 (南西から)



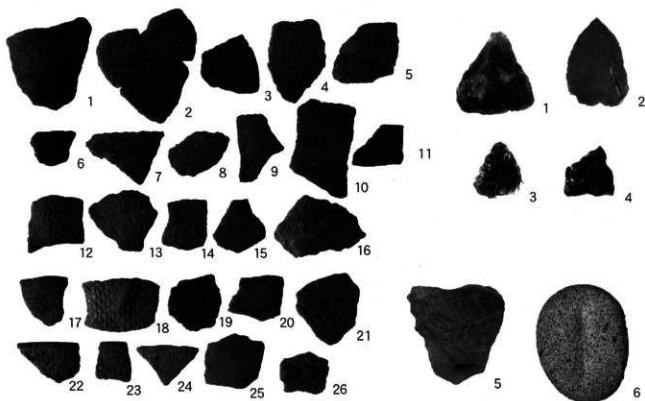
1号集石遺物出土状況 (南から)



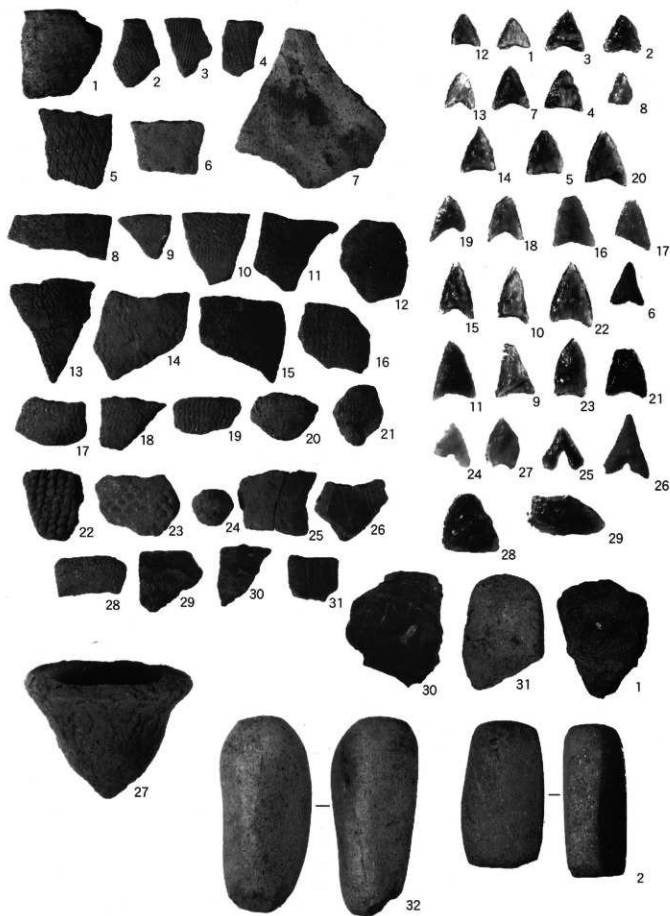
1号集石全景 (南から)



ミニチュア土器出土状況 (南から)



1号集石出土土器・石器



1号土坑及び調査区内出土土器・石器

報 告 書 抄 録

ふりがな	いしはらだいせき							
書名	石原田遺跡Ⅰ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告							
シリーズ番号	8							
編著者名	三輪孝幸							
編集機関	甲斐市教育委員会							
所在地	山梨県甲斐市下今井236-2							
発行年月日	平成18年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯・東経		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
いしはらだいせき 石原田遺跡	山梨県 甲斐市 高上条 669-1 他	19210	敷-44			平成16年 4月16日～ 平成16年 5月1日	98.6	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
石原田遺跡		縄文時代	集石	縄文土器 石器	縄文時代早期の集石 早期のミニチュア土器			

甲斐市文化財調査報告 第8集

石原田遺跡Ⅰ

発行日 2006年(H18)3月31日
 発行 甲斐市教育委員会
 山梨県甲斐市下今井236-2
 印刷 株式会社 峽南堂印刷所

